

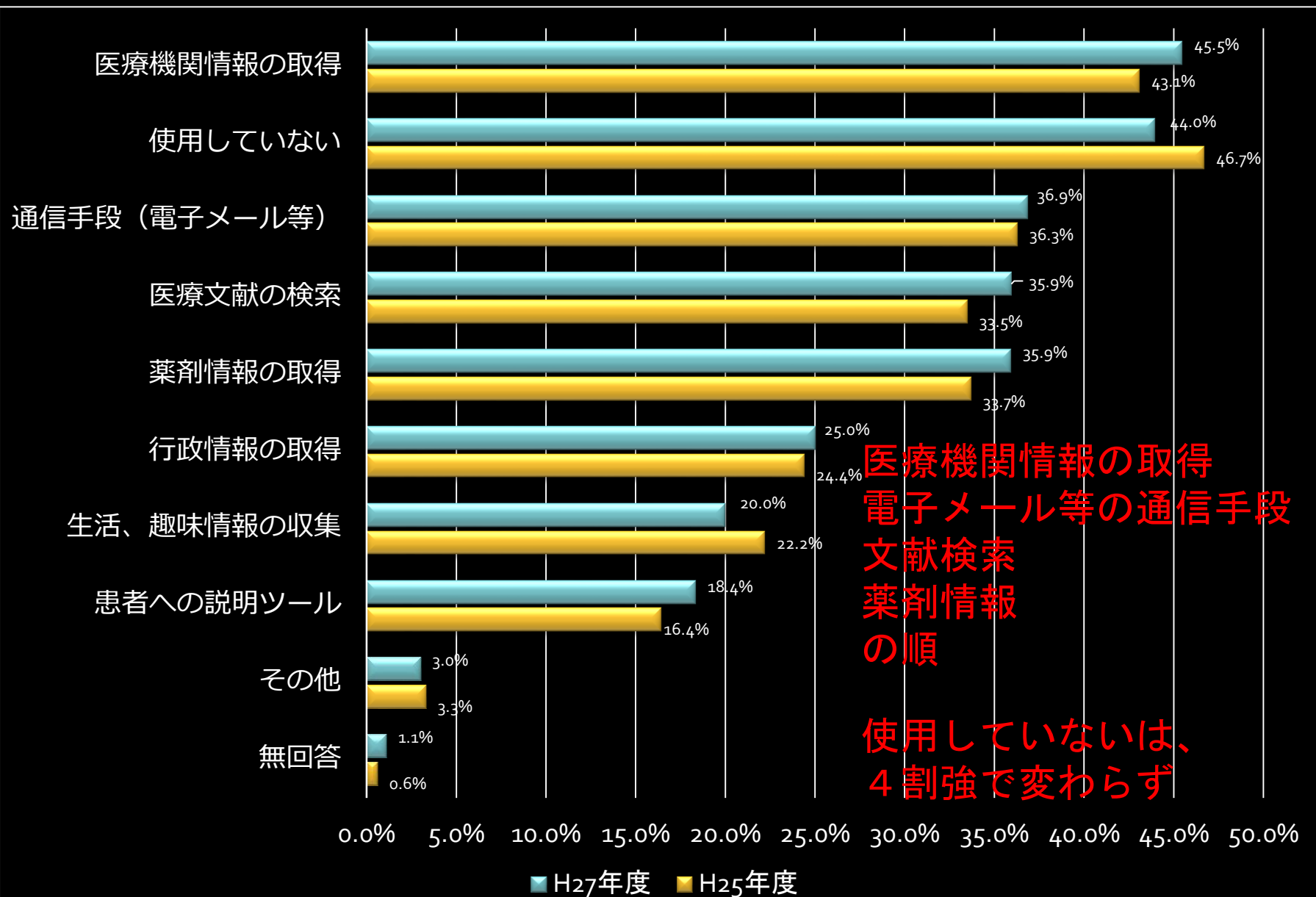
医療IT化に関する調査について

東京都医師会 医療情報検討委員会

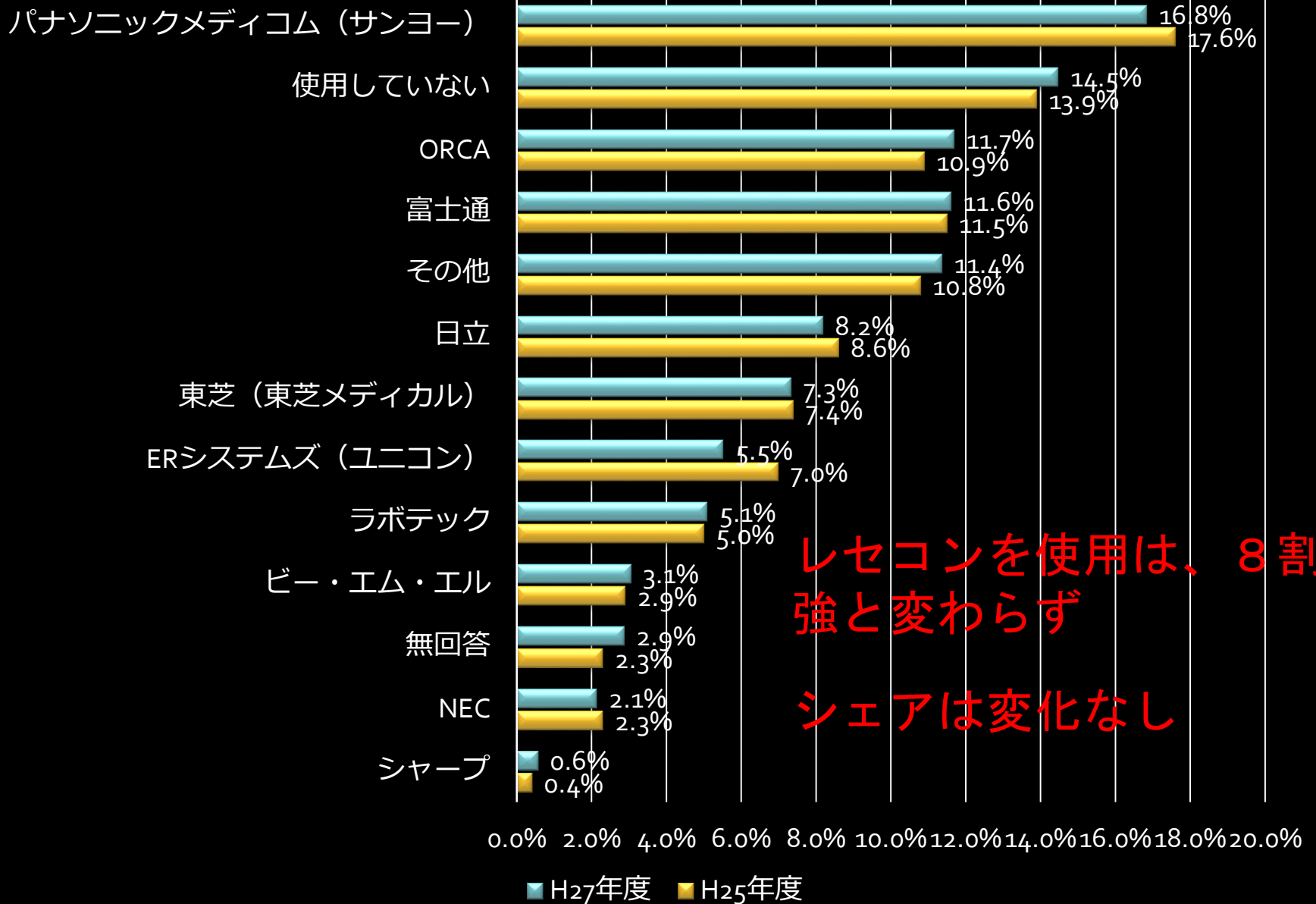
委員長 黒瀬 巖

- 東京都医師会医療情報検討委員会では医師会員（A会員）を対象に、「医療とITに関する調査」と題して、医療機関におけるIT化に関するアンケート調査を2年毎に行っている。
- 本報告では、平成28年2月に行ったアンケート調査の結果について概説する。
- 本年度の送付数は9,884、有効回答数は5,147であり、有効回答率52.1%も含めて前回と比較して変化はなかった。

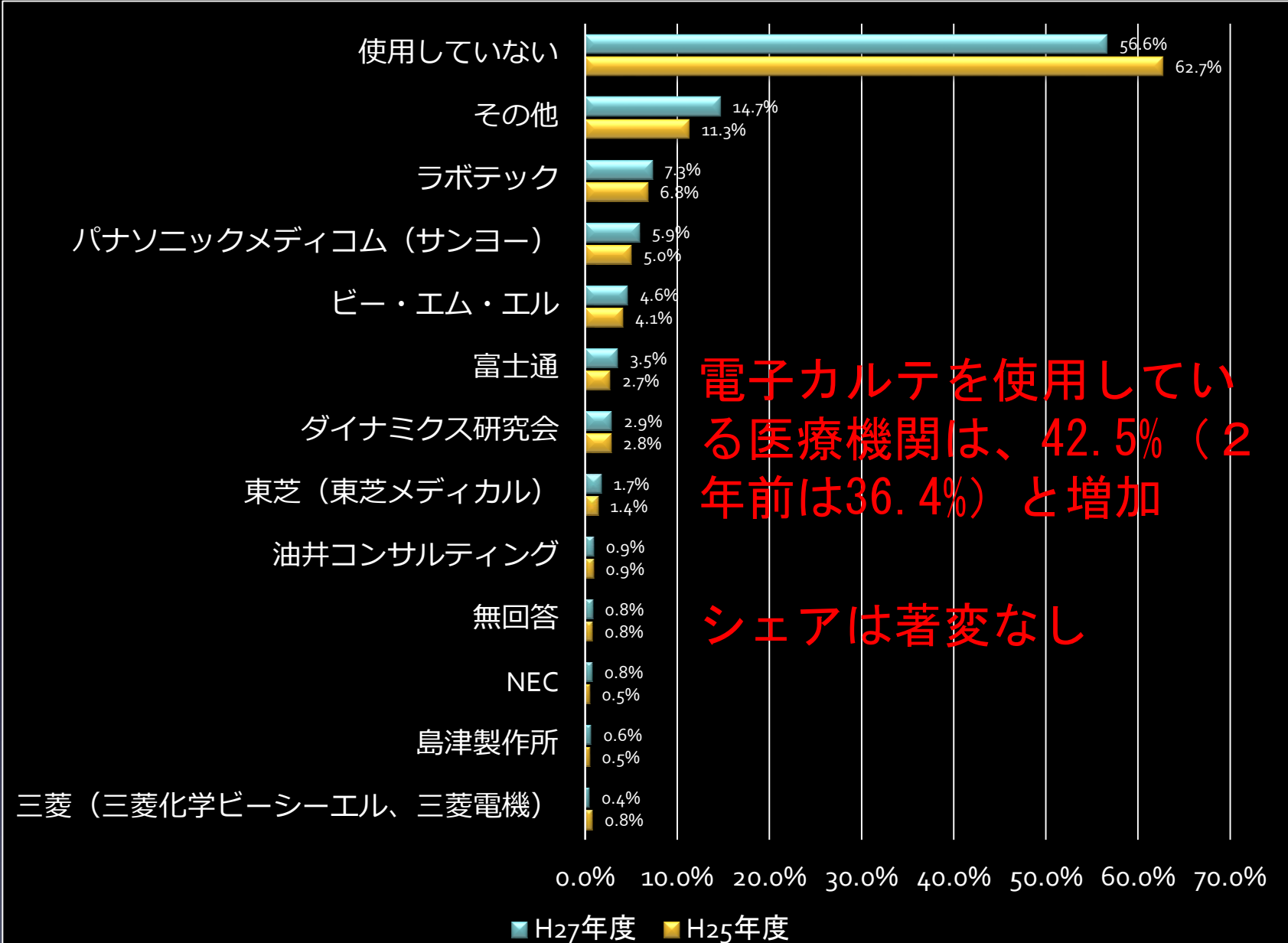
診療室でのインターネットの使用用途 (複数回答可)



レセコンの使用状況

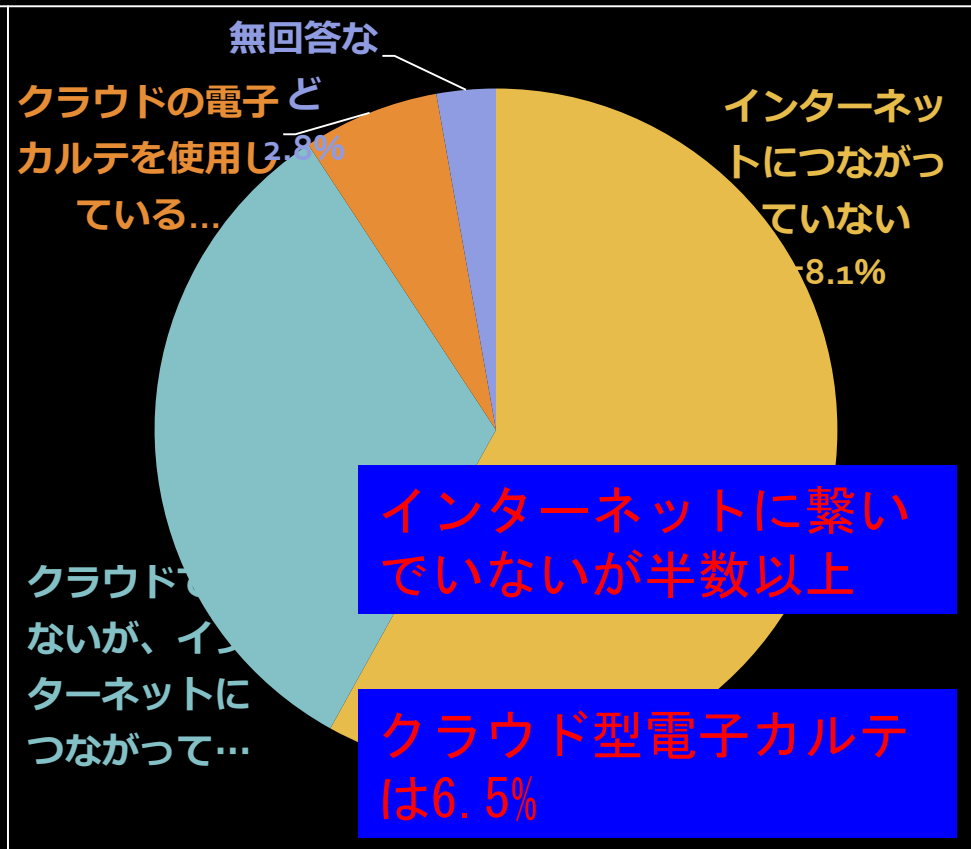
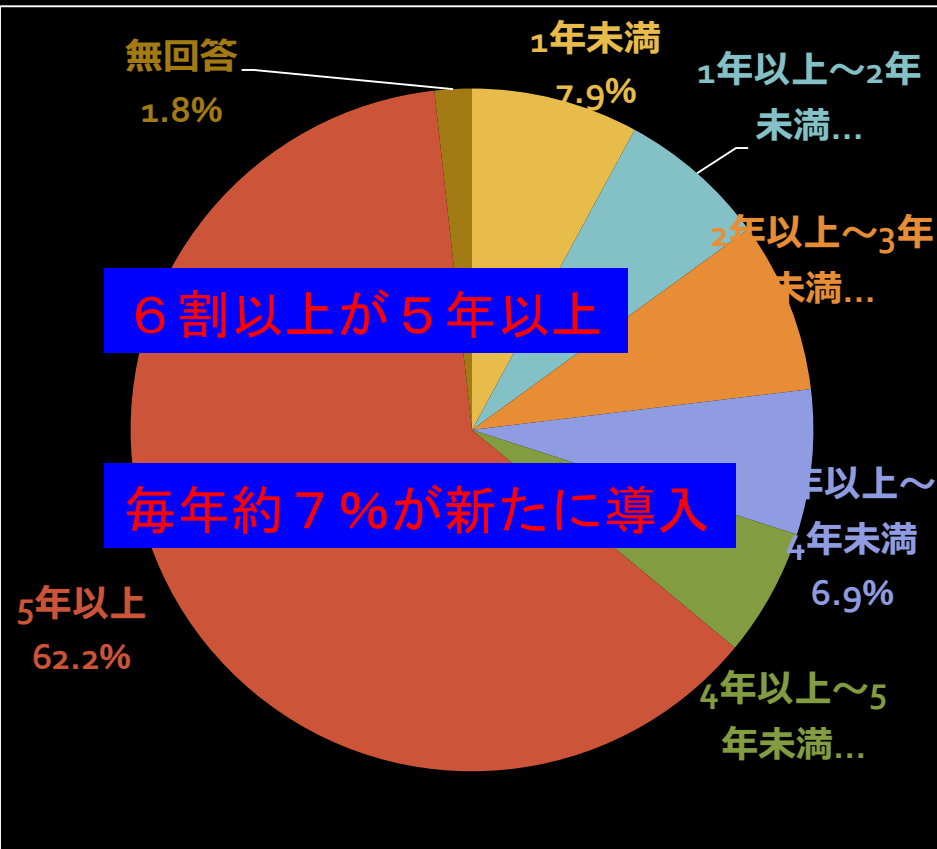


電子カルテの使用状況



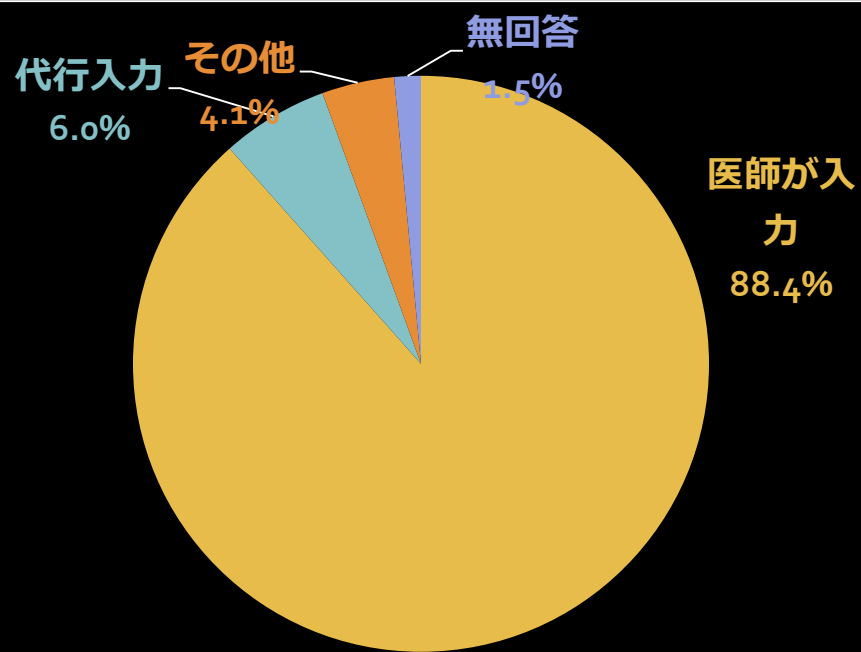
電子カルテの使用期間

電子カルテはインターネットにつながっていますか

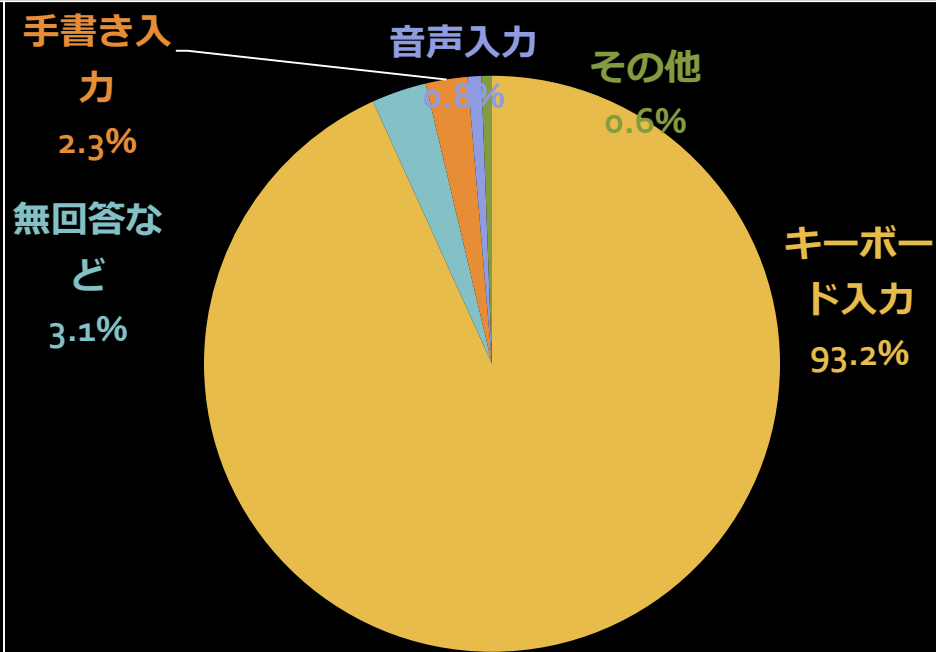


電子カルテのデータ入力者

電子カルテのデータ入力方法



医師自身が約9割



9割以上がキーボード入力

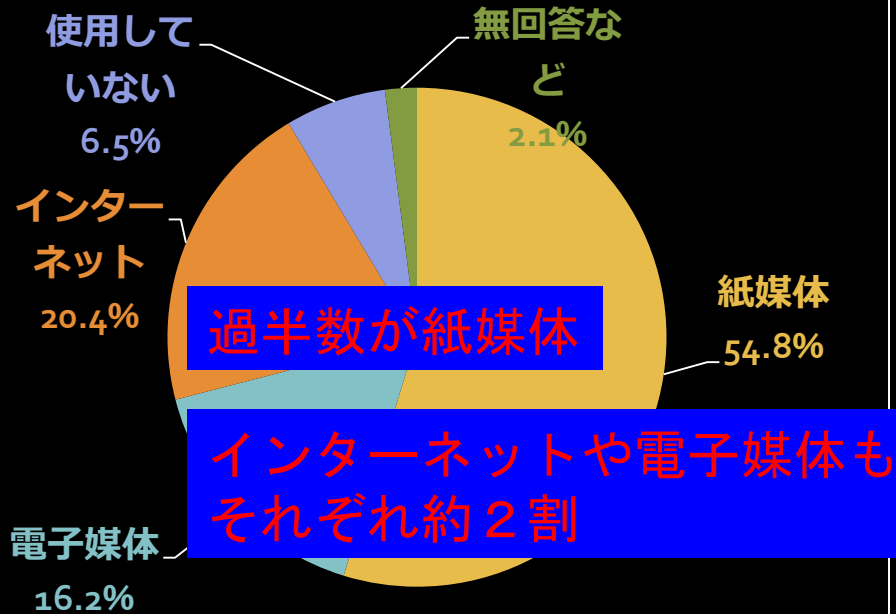
医療機器の電子化と電子カルテとの連動状況

	電子化なし (%)	電子化あり (%)	電カルと連動 (%)
単純Xp	28	51	21
造影Xp	40	38	22
CT・MRI	11	53	36
内視鏡	46	33	22
心電図	72	13	16
眼底	54	29	18
エコー	67	18	16

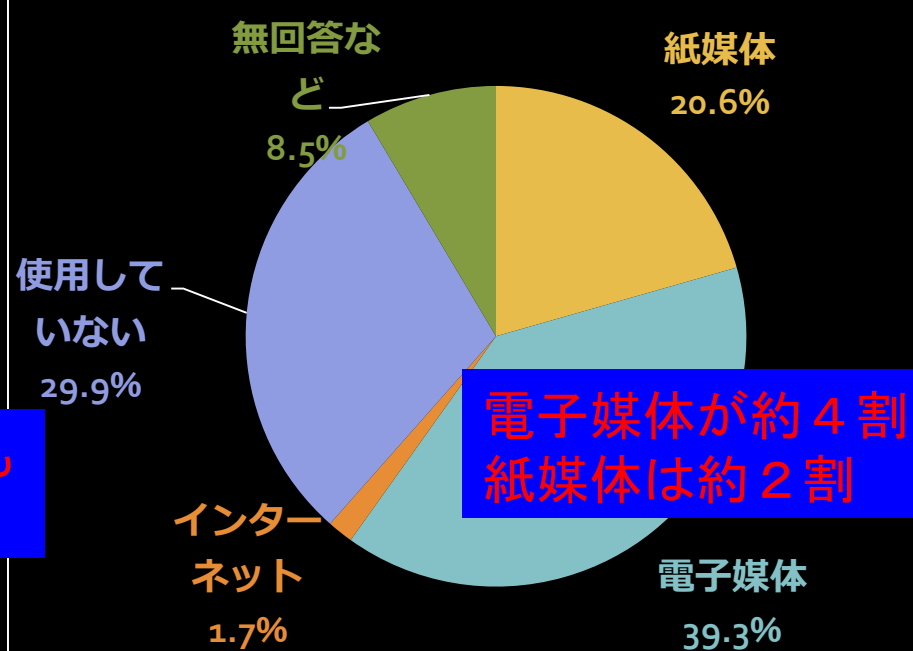
単純XpとCT・MRIは電子化率が半数以上

電子カルテとの連動は、CT・MRIが36%で最も高く、
他の機器は概ね2割前後

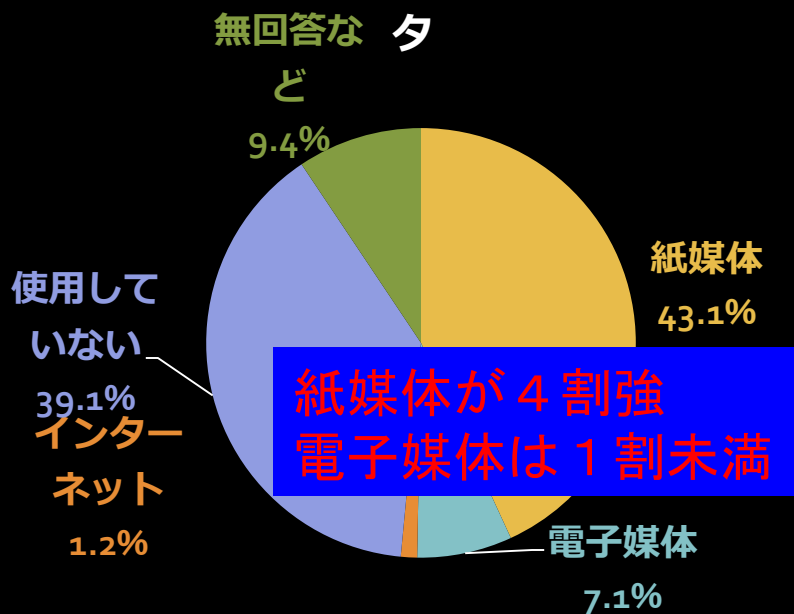
血液検査データ



CT・MRIなどの画像データ



ホルター心電図や脳波などの解析データ



臨床検査データの受取方法

電子媒体が普及しているのは、
画像データ

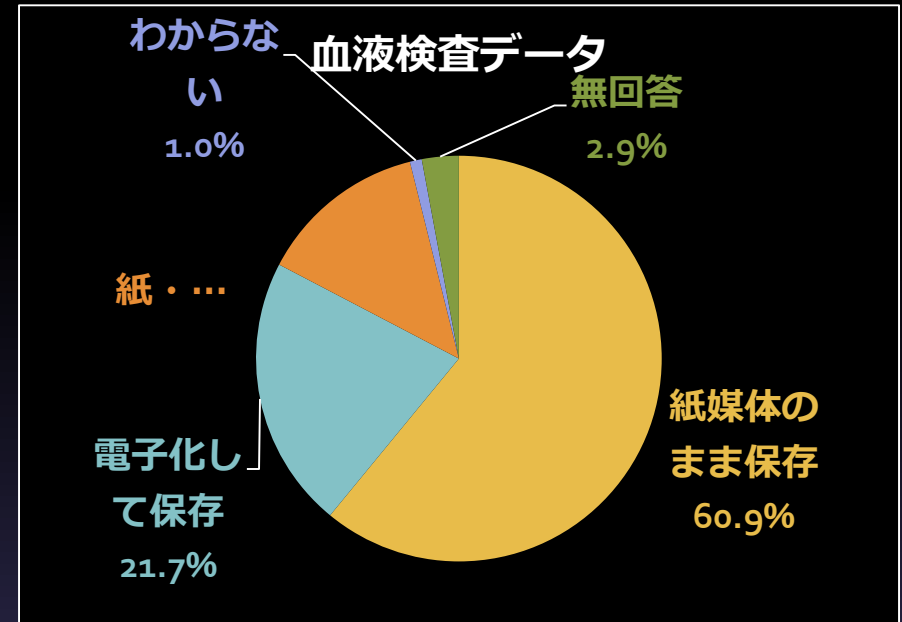
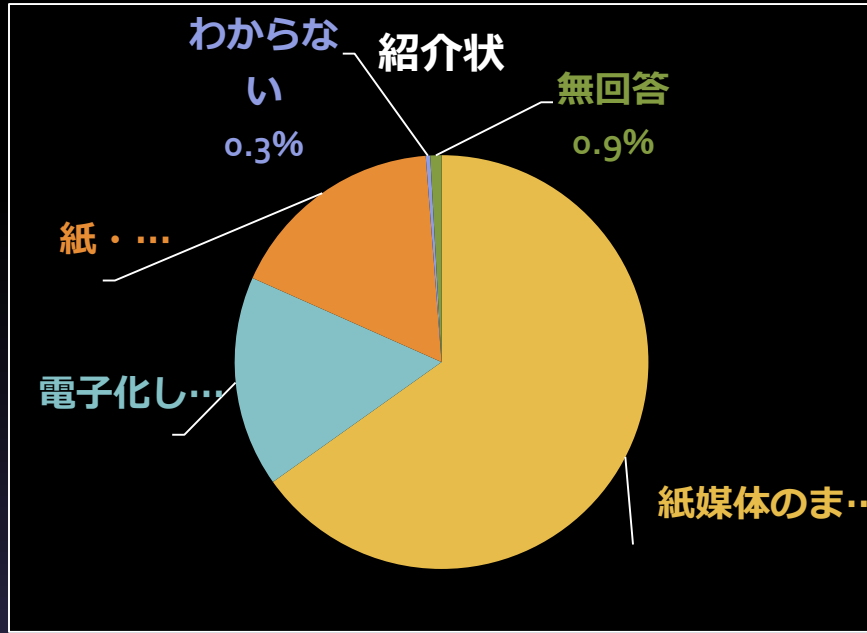
⇒血液検査データ

⇒解析データ

の順

ただし、インターネットの利用は
血液検査データが最も普及

書類や検査データの保存方法 -1



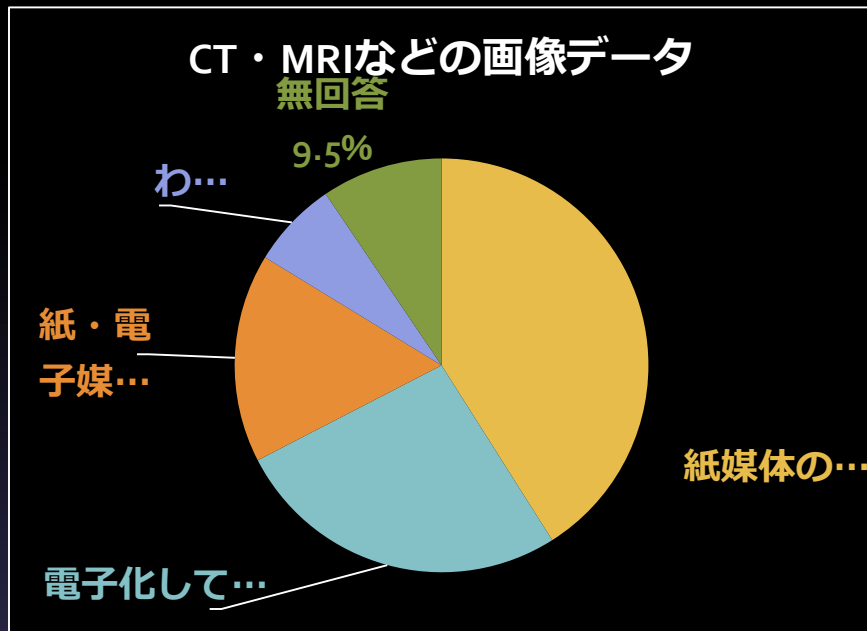
「紙媒体のまま保存」されている医療機関が2/3

「紙媒体のまま保存」されている医療機関が2/3

「電子化して保存」と「紙・電子媒体の両方で保存」を合わせて約1/3

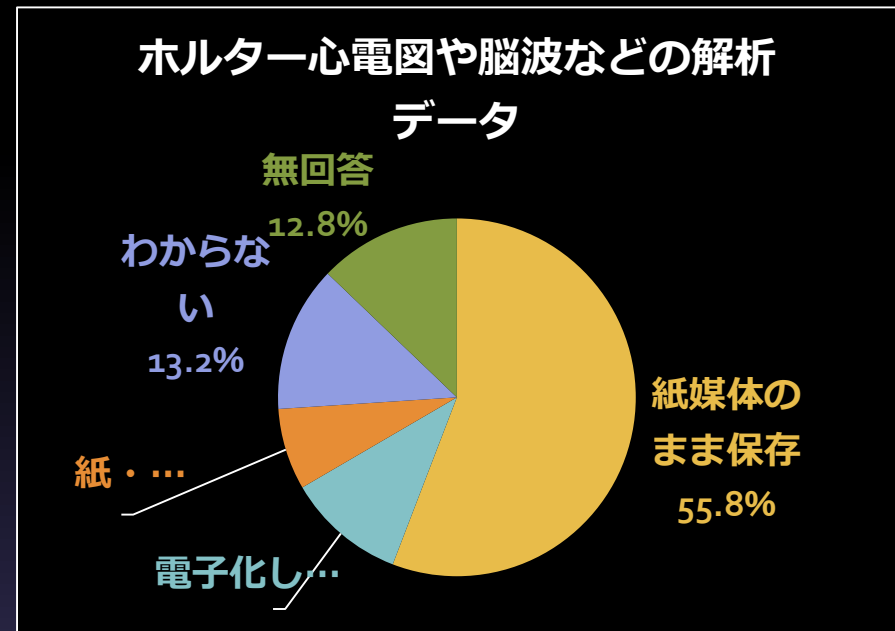
「電子化して保存」と「紙・電子媒体の両方で保存」を合わせて約1/3

書類や検査データの保存方法 -2



「紙媒体のまま保存」されている医療機関が約4割

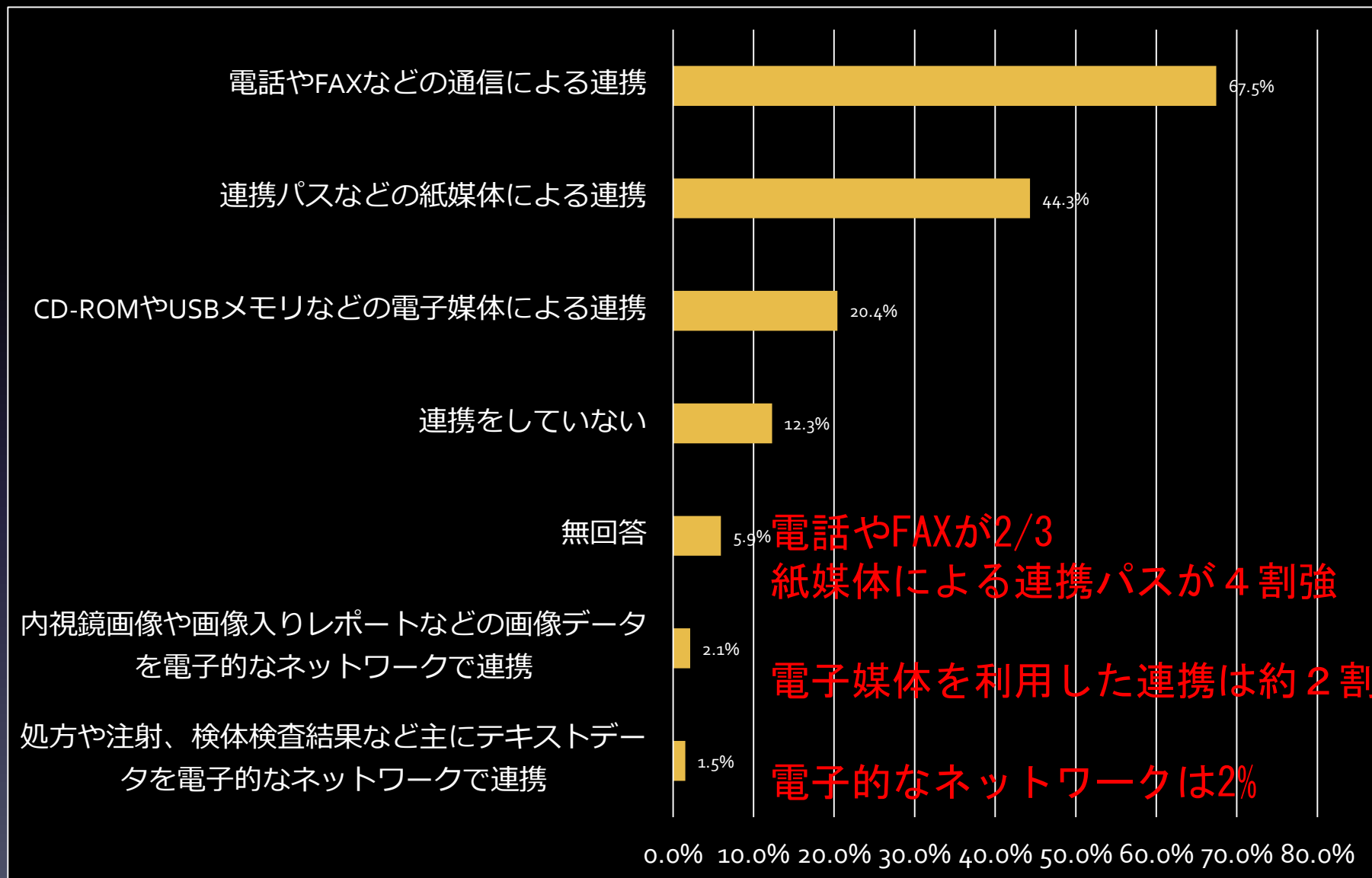
「電子化して保存」と「紙・電子媒体の両方で保存」を合わせると約4割



「紙媒体のまま保存」されている医療機関が約55%

「電子化して保存」と「紙・電子媒体の両方で保存」を合わせて2割弱

地域の病院・診療所との連携の状況 (複数回答可)



総括・考察

- 診察室内でのインターネットの利用は、平成25年度と比較して横ばいであり、インターネットの有効利用は格段には進んでいないことが示唆された。
- 電子カルテ利用者は、ほぼ一定のペースで年々増加してきている。ただし、クラウド型電子カルテは未だ少数派にとどまることが明らかとなった。
- 種々の医療データの保存や授受、さらに病診・診診連携におけるネットワークの利用は未だ極めて少数派にとどまっていた。一方で、画像データを中心に、電子化や電子カルテとの連動が進んでいるものもあり、今後はネットワークを利用した医療データのやり取りが普及することが期待される。

本アンケート調査にご協力いただいた会員各位に心から感謝申し上げます。

今後の調査に対して、より多くの皆様のご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご清聴、誠にありがとうございました。